



衆院 解散

来月16日投開票

「違憲状態」で選挙戦



衆院が解散され、万歳する議員＝16日午後3時50分、衆院本会議場

衆院は16日夕の本会議で解散された。これを受け政府は臨時閣議で衆院選日程を「12月4日公示―16日投開票」と決定。衆院選では3年余りの民主党政権が審判を受ける。消費税増税、脱原発、環太平洋連携協定（TPP）といった日本の将来を左右する課題を争点に選挙戦が展開される。

衆院選は、民主党が政権を獲得した2009年8月以来、約3年4カ月ぶり。12月の衆院選は1983年以来となる。野田佳彦首相と全閣僚は16日午前の閣議で解散の閣議決定書に署名。衆院本会議で横路孝弘議長が解散詔書を読み上げた。

衆院の「1票の格差」是正のため小選挙区定数を「0増5減」する選挙

制度改革法は16日に成立したもの、12月16日の衆院選には適用されない。このため最高裁が「違憲状態」と指摘した格差は解消されないままの選挙となる。首相は内閣支持率や民主党支持率が低迷する中、解散を決断。これに対し民主党内では反発が強まり離党の動きが相次いでいる。政権維持は難しいとの見方が大勢だ。一方、自民党は安倍晋三総裁の下、公明党と連携し政権奪還を目指す。「二大政党」の対立に橋下徹大阪市長の日本維新の会や、石原慎太郎東京都知事の太陽の党など「第三極」が絡む様相。衆院選後は政権の枠組みの変更や政界再編含みの動きとなるのは確実だ。